



厳しい日本経済の中 生き抜く組織力

全鍍連 監事 西山 衛

(有限会社カネカプレーティング／長野県鍍金工業組合)

全鍍連監事、長野県鍍金工業組合西山です。目まぐるしい世界情勢のなか、ものづくり大国日本が今後どうなっていくのか、今タイで執筆をしています。タイの工場では現在ハードディスクを主体とした生産をしておりますがコロナ前の一時期の生産がなくなった時期に比べ生産ライン数も増え現在フル稼働しております。

時の流れでしょうか、数年間は赤字であった海外生産、閉鎖という道もあったはずですが。しかし我慢した結果がこの形になったのではないかと思います。今ハードディスク産業がなぜ？ AI含めた情報データ管理センターの目まぐるしい建設がこの近年ものすごいスピードで行われ瞬く間に全世界を網羅しました、AIは人間をダメにしていくと言われ、ただ全世界の人々がいまAIに頼らなければ生活できない状態になりました。

日本のメッキ産業も現在その時を迎えようとしているのかと思えてなりません。戦争が起き材料は高騰し人件費を見直さなければならぬこの時代、設備は老朽化し、投資はやむなくすべてが1.5倍、何が起きているのでしょうか。

この中で組織一丸となりものづくりを変えていかなければならない確かに表面処理業者は瞬間的な利益は製造業のなかでも優れていますが、設備その他の劣化は他の製造業の倍

以上の速さで劣化します。適正利潤、適正利益を訴えなければと思います。ただし今は耐えるとき、しっかりと生産地盤を作り強い組織力で立ち向かい、しっかりと見直しをしていただくよう団結しなくてはいけないという思いです。

今こそ企業価値を高め日本のメッキ業の底力を見せる時ではないかと、海外では今話を聞くとあまりマテリアルコストは上がっていないと聞きました、人件費もこのところは上がっていない日本はどうでしょう、上げなければやっていけない現実が見え始めています。

日本のメッキ産業はこれから働く方たちに少しでも還元していかなければと思います。その為には組織ネットワークを使い発注元、原材料メーカーさんとのコミュニケーションをとりこれからの表面処理業界の評価を上げていくことこそがこの時代と感じます。

我々の業界はハイテクな部分があればローテクな部分がほとんどです。しかし時代は人口減少がますます進み、DXに対応していけないと時代についていけない状態です。さらにまだすごいスピードで時代は変化しています。これからは数十年ぶりのインフレが来るのではないかと予測される中、横とのつながりをしっかりととり、我々業界が時代をリードし、さらに組織力を駆使し発展することを願いたいと思います。